

平成十三年度 修士論文・卒業論文題目

大学院文学研究科

〈歴史学専攻〉

田 中 聖 二 筑後川上・中流域の古墳文化の様相と天満古墳

中 川 祐 志 中国古代政治社会論考

内 田 鉄 平 近世後期における農村の動態

金 大 換 近代朝鮮における鉄道史

—1890年から1945年の解放までを中心に—

〈文化財学専攻〉

岩 尾 美保子 日本における飛天の図像表現

—福岡県求菩提山岩洞窟

〈伝迦陵頻伽〉を中心とする考察—

梅 野 敏 明 中世後期における「公領」に関する考察

—大友氏を中心に—

大 島 香 織 ベリー公の『豪華なる時書』とスキファノイア宮殿

「十二ヶ月の間」

—月曆の表現形式における一考察—

重 松 知 美 村上華岳の作品制作についての一考察

—インド細密画による影響から—

本 山 薫 女性の肖像に見る「新しい女」のイメージ

—萬鐵五郎と演劇の接点

頼 木 理 恵 子 松本竣介 1938年から40年「都会シリーズ」における一考察

浦 井 直 幸 律令体制下における地方官衙の成立と展開

—二豊地域を中心として—

佐 藤 万 里 江 菊池川流域の装飾古墳と舟の表象

重 本 文 明 竪穴住居跡にみる稲作受容期前後の文化動態

園 田 大 中世初期における庄園開発の特質と動進

—開発と宗教

藤 本 正 和 九州における後期旧石器時代前半期の研究

—A T下位石器群と宮崎後牟田遺跡下層石器群の

位置付け—

韓 知 伶 ミュージアムの発展とミュージアムにおける展示・

教育活動の変遷に関する研究

—Workshop v Handsonの概念に基づいて—

史学科

〈日本史専攻〉

青 木 隆 志 記紀にみえる戦史について

板 井 佐 和 子 駒競行幸絵巻について

高 正 樹 古代裁判制度史 —律令法を中心として—

末 廣 直 裕 聖徳太子像

古 田 由 香 隼人の生活と文化

真 崎 浩 子 万葉歌人額田王の女性像

南 亮 介 『男衾三郎絵詞』にみる中世武士の生活

三 浦 和 也 今川氏真とその領国支配

石田 太郎	日本中世の刑罰の歴史	高橋 雄太	中津競馬廃止を考える —過去・現在・未来の地方競馬のあり方—
小川 幸信	『往生要集』にみる地獄と極楽	黒木 政秀	安井息軒の研究
尾崎 雅之	室町期の島津氏の領国支配体制について	永吉 朋史	鹿児島県の廃仏毀釈
川原 亜紀	倭寇の跳梁と対外交渉の諸展開	日高 朋子	佐伯藩から佐伯県へ—廃藩置県の一例として—
古賀 万美子	戦いにみる呪術・占星の研究	朝来 祐介	坂本龍馬と薩長同盟について
後藤 貴和	高橋紹運	阿部 哲也	新選組研究
齋藤 博之	—大友家のために戦い華々しく玉碎した武将—	阿部 友香	—土方歳三を中心とした新選組の研究—
阪本 洋一	敵島合戦以前における毛利氏の発展について	板倉 智哉	江戸時代の法の特徴 —放火罪にみる法意識—
白石 龍一	中世都市博多と貿易商人	上田 雅之	日本駆逐艦・護衛艦史
白石 正太郎	加藤清正と肥後領国経営	内田 和昭	—造艦技術史からみた日本国防史—
鈴木 彰貴	御恩と奉公について	梅田 拓郎	戦国期の一向一揆について
清戸 豪	源 義経について	江藤 崇	昭和天皇の戦争観
檀上 雅紀	村上水軍と瀬戸内の海城	遠藤 勝	温泉観光地の発展と現状—別府温泉を事例として—
西村 幸子	鎌倉幕府と伊予河野氏 —その権限をめぐって—	大城 弓枝	田中角栄と日本列島改造論
西村 聖	中世の女の仕事	岡本 康裕	西南の役の影響
二宮 寛明	恵信尼について	尾崎 雅典	石敢當について
平盛 竜也	『守貞謄稿』に見る江戸の食べ物屋	小野 滋規	新選組滅亡の過程を追う
三浦 圭	西行法師の研究—エリートが感じた無常とは—	梶原 洋平	吉田 茂—現代に与えた影響—
米村 俊治	豊薩合戦の研究	久原 裕樹	大分市発展の背景と要因
米村 雅司	—豊後南郡衆の島津氏への内応を中心として—	窪 弘規	井上準之助の経済財政政策
鹿島 清司	「肥後国衆一揆について」原因とその背景	古賀 大一	秋月の乱
箱田 州朗	肥後国限府の成り立ち—成立時期とその背景—	古閑 久恵	愛媛県大洲・喜多郡の洪水の歴史
	太平洋戦争はなぜ回避できなかったのか		陸軍第一八師団（菊兵团）の奮闘
	—その背景と世界情勢—		せいしよこさん信仰 肥後熊本の寺院を中心として
	福岡県の成立について「戦争と内部紛争の変遷」		

小玉光貴	有田焼の研究		
古原竜也	関流和算と古原教学について	山口晋作	春秋時代荘王期の対外関係について
小林耕平	銃後の生活史	戸北洋臣	曹操軍団の人的構成について
後藤正和	別府温泉―温泉から見る歴史・歴史的町並の復元―	許方榕	皇民文学の流通から台湾ナショナリズムの萌芽を論じる
佐々木力	一村一品運動の研究	井上郁栄	尸解仙―不死への憧れに見る中華文化圏の民族性―
佐藤烈	昭和30―40年代の大衆文化について	山内真人	秦帝国滅亡の原因について
朱珮慈	日本統治下の台湾における宗教政策	井上裕一	春秋時代における覇者の性格の変質とその背景
蘭田隆弘	特攻隊の研究	岡本太吾	明代の倭寇対策の考察
武田晋一	南部藩の明治維新	沖本和也	後漢末の漢中政権
塚原慎一郎	太宰府の祭りと天神信仰	加藤範子	前漢政治史の後宮
筒井勇樹	宇和島藩とパークス	秃井唯信	咸豊期における露清外交について
床島健	太平洋戦争時の本土空襲について	川井貴雄	北斉政局における権力闘争について
歳納寛康	佐伯海軍航空隊の研究	久保平和	高昌国における仏教信仰について
中村浩治	神仏分離政策から見える政治と宗教の密着	古賀啓嗣	東晋初期の貴族政治と地方軍閥
成松芳樹	広島県の成立と地方自治体制の確立	高木香世	孫呉政権の成立過程について
藤代健	宮中勢力の終戦工作―木戸幸一と重臣たち―	竹村涉	宋代の黄河治水と新旧党争
松田幸之	太平洋戦争における日本軍の侵略およびその報復攻撃被害について―若者	葉山敏満	称「帝」問題より見た戦国時代中期の国際関係
三代英孝	東条英機について	溝口正隆	漢代の西域経営―匈奴対策を中心として―
水之浦幹	日本の台湾経営 確立期を	生駒建	日清戦争開戦前までにおける朝鮮を中心とした東アジアの情勢
宮崎哲也	学校環境の変遷	磯田典顕	抗
宮田武志	『新しい歴史教科書』(扶桑社版)についての私の意見	池松まどか	バーミヤーンの歴史と宗教
安川英希	現代における新撰組観	大塚雄司	ロムの移動と音楽的影響、そして打楽器の発達につ
山田宗	秋田立志会(社)と秋田事件		
橋本賢一	日本近代史における憲法論争―穂積八束を中心に―		

〈東洋史専攻〉

いて

ジャワ軍政における宗教宣撫

イスラムのモスク

イラン砂漠地帯の生活技術

―カナートがつくりだす社会―

「モンゴル帝国の外国人官僚

―オゴタイ時代の分裂と確執について―

近代中国の朝貢―海外貿易について―

聖都エルサレムの歴史とその城壁

〈西洋史専攻〉

永松 徳明

フランス絶対王政の崩壊

白石 裕一

オーストリアのアウスグライヒ

足達 崇

ドイツ関税同盟

池松 孝晃

古代エジプトの民間信仰

稲葉 美穂

マリイ・アントワネットとその時代の女性たち

内田 光洋

―ヴェルサイユ行進にみる市民女性の活躍―

大古場 佳

エジプト新王国期における死生観  
―人形棺の広がりからみる死生観の変化と広がり―

草野 俊満

ヒッタイト帝国の外交関係  
―カディシユの戦いを中心として―

鎌本 有香

ロバスピエールと恐怖政治

石川 善久

スペイン人の記録から見る古代マヤ人の家族形態  
―征服の影響―

イギリスの宥和政策

―チエンバレンの宥和政策を中心に―

ジャンヌ・ダルクと彼女をめぐる人々

スペインの新大陸における植民地政策

ローマの家―ローマの若者たち―

壁画にみるポンペイの生活史―秘儀荘からみて―

ローマのコロッセウム

「12世紀ルネサンス」と数学―西欧数学の源流―

古代マヤ文明の流通

北欧神話の衰退 キリスト教の介入

ルイ14世とパリールイ14世とルーヴル宮―

Antonio Gaudi-Alcatluna

トゥルバドゥール―世俗音楽の興隆―

属州ヒスパニアのローマ化

ヴァイキング時代のアイスランド

カルタゴの国家と社会―交易に生きた民族―

マウンド文化―12Cミシシピイ文化を中心に―

ビスマルクとドイツ近代国家の成立（エムス電報事件を中心にみるビスマルク像について）

〈世界文化史専攻〉

宮本 武蔵

四神図に関する考古学的研究

池原 悠貴

古代日本の仏師について

岩下 英雄

石包丁による穂摘みに関する研究

江頭 敦

細形銅剣の型式分類編年に関する試案

朝鮮・韓国の細形銅剣―

岡本 奏美 前方後円墳の編年に関する試案

佐久田 隆 足の研究―沖縄伊良部島民の足―

白石 健 細形銅剣の型式分類編年に関する試案

―日本の細形銅剣―

城 知亮 足の研究―沖縄伊良部島民の足―

高尾 俊宏 宇佐神宮の研究

竹下 博子 前方後円墳の編年に関する試案

―関東地方の前方後円墳―

田中 良享 環濠集落の研究―吉野ヶ里遺跡―

西見 宣昭 人物埴輪の研究

原田 万里 前方後円墳の編年に関する試案

―中部地方の前方後円墳―

福永 磨紀 熊本県北部の菊池川流域における装飾古墳の研究

前田 奈緒 前方後円墳の編年に関する試案

―近畿地方の前方後円墳―

松田 健 石包丁による穂摘みに関する研究

丸山 佳世 前方後円墳の編年に関する試案

―中国・四国地方の前方後円墳―

安井 由加 前方後円墳の編年に関する試案

―九州地方の前方後円墳―

山角 和弘 飛鳥古代遺跡の研究

斉藤 隆敏 戦国期英彦山戦史の研究

鈴木 裕太 九州出土の古代鬼瓦の研究

―九州における古代鬼瓦の系譜と展開―

〈考古学・埋蔵文化財専修〉

村上 美帆 遠賀川流域における装飾古墳の様相

西嶋 奈美 北部九州の弥生噴墓における階層性

―甕棺・副葬品の分析から―

井上 誠二 生目古墳群の研究

―首長墳系譜の展開と歴史的意義―

北川 貴洋 金海式甕棺の変遷と成立地についての一考察

谷 潤 亮 江田船山古墳における横口式家型石棺の一考察

塚崎 幸雄 国東半島における横穴式石室と横穴墓の展開

寺田 庸平 日向における地下式横穴墓出土の鉄剣について

―とくに島内・小木原遺跡出土の剣編年を中心として―

藤野 美音 土器の出土状況からみた井戸祭祀

―福岡平野を中心として―

藤本 永吉 装飾を有する横穴墓の展開と磐井の乱との関連性についての一考察―菊池川中流域を中心として―

前田 成美 環濠集落に関する一考察―北部九州を中心として―

松浦 憲治 池上曾根遺跡の大型建物に関する研究

―大型建物の構造について―

松梨 史樹 竹野川流域にみる弥生時代後期の墳墓について

―地域間の交流と特質性―

梅木 亮治 縄文後期土器の編年について

黒木 俊次 南九州における縄文時代の貝塚について

―石器・骨角器魚撈具を中心として―

織田 教雅 西南四国の旧石器時代から縄文章創期

古川 一郎	別府湾周辺の縄文時代遺跡	山元 真美子	文化財保護制度の対外比較
矢野 幸子	縄文時代における今山産玄武岩の利用 —福岡市内出土石斧、土掘具（いわゆる扁平打製石斧）を中心として—	吉田 周治	県南都市、佐伯、臼杵の城下町の保存活動の違いと、これからの保存活動後藤宗俊
西尾 暁生	大野川流域における遺跡の分布と地形との関連性	北條 悠代	山田寺の歴史とその規模
樋口 健太	長崎県・五島列島における縄文時代の漁労活動について	安藤 靖記	金刀比羅宮
細川 亜希	御所ヶ谷神籠石の研究 後藤宗俊	小田 将彰	延岡城築城
上土井 朋美	装飾古墳—熊本県菊池川流域を中心として—	藏本 英俊	飛鳥寺
石井 孝明	遺跡保存と公開のありかた —吉野ヶ里遺跡を中心に—	下澤 圭介	小倉城
井上 索裕	律令制下の古代大分平野における官衙遺跡の動向	高見 良彦	禅宗様式の塔婆の研究
加来 義宏	地域の文化財の保存と活用—豊前地方を中心に—	山本 千亮	由加山蓮台寺について
河津 恒平	遺跡保存における報道の影響	大山 琢央	歴史的町並みの現状と課題、及びこれからの展望 —倉敷川畔保存地区を例とし—
小寺 祐介	文化財行政と情報公開 後藤宗俊	村上 大輔	国東半島の石造物
笹田 博信	古代吉備における特殊器台の成立と発展	竹下 尚志	さいころの日本史と双六
杉森 久恵	景観の保存における制度の対外比較	柳田 裕三	東九州の縄文時代早期後半の様相 —手向山式土器からみた「もう一つの縄文文化」—
戸田 英佑	西遠地方の豪族と大和王権との関わり	渡邊 仁	下石家屋敷跡土坑—出土一括遺物についての一考察
橋本 佳代	史跡原城の歴史と考古学	市川 恵子	肥前陶磁—鍋島について—
平井 鉄平	考古学からみた縄文時代の漁労活動	太田 万喜子	土出木製品の保存処理
平盛 雄祐	備後地方における後・終末期古墳文化の展開 —芦田川下流域を中心に—	川崎 宏之	日本における古代ガラス製品の歴史について
福田 高久	三島地域の古墳と現状について —大阪府三島地域を例に—	楠 浩一	九州の古代寺院における百済系瓦当について
村子 香織	来縄郷における古代の上殿遺跡の性格	末吉 理恵	紙資料における影響
		田中 紀子	双脚輪状文の源流及び石屋形との関連について 「紙」資料の劣化と保存について

遠山 宏 漆について

中村 讓 古代の音の世界と楽器

長井 宏治 宇佐平野周辺における北久根山式期の様相

野中 秀昭 佐賀県の弥生時代・古墳時代について

原 広実 赤色顔料について

宮邊 紘義 大分県における報告事例をとりあげて―  
豊後の古墳時代における首長墓について

柳田 朋絵 赤色顔料について

和澄 雄介 大分県における報告事例をとりあげて―  
酸性紙による紙の劣化の構造とその対処法について

文化財学科

〈環境歴史学・民俗学専修〉

尾方 美紀 近世期における浄土真宗―速見郡法蓮寺を中心に―

河津 志保 豊後村落史研究―村明細帳を通して―

篠原 洋子 山岳修験と医療―主にくすりを中心として―

高見 順 福智文書の解読―英彦山と福智山との関係―

高見 友大 近世陶磁史研究―瀬戸窯業について―

田中 康裕 成富兵庫の治水

松田 望 近世飢饉の救荒食

馬渡 麻耶 近世期における九州の農民神事と祭り  
―信仰から見た芸能―

玉川 雄一 高取城について

本多 由実 愛媛県南予地方の祭祀行事について  
―鹿踊りと牛鬼を中心に―

赤嶺 梨香 沖縄北部のウンガミ―シヌグとの比較を通して―

安部 由美子 人々のもつ河童観念の変化  
―大分県の事例をまじえて―

岩倉 慶和 ふるさとの民俗―比和町布見の民俗誌―  
「日本人の狐観」

岩崎 亮 藍に関わる信仰と産業としての藍の歴史の変遷  
―徳島県を事例として―

江藤 裕美

大本 昌司 芸北神楽の保存伝承

源川 琴美 出産における清浄と不浄の歴史の変遷について

古瀬 美鈴 陶工たちの信仰とやきものの神々  
近世以降に見られる娯楽について

酒井 利夫 佐賀県の浮立―佐賀県内の浮立の比較とその関係―

武廣 俊輔 田の神石像とその信仰―鹿児島県を中心に―

田島 明日香 民俗社会における異界観と神隠し

田中 洋平 沖縄の仮面・草飾文化について

辻 田 経濟 長崎を中心とする行事菓子について

西川 千晶 日本人にとつての餅が果たす役割と地域性について

林 裕美香 憑きもの

松川 寿美子 波照間にとつてムシャーマがもつ現代的意味

宮城 努 現代社会における神楽の役割

森 俊文 離島振興方策 大分県東国東郡姫島村から考察する

入川 正弘 離島振興策の展開と在り方

浦塚 英人 天草のキリシタン文化

梶 隼人 北九州市五市合併にみる市町村合併問題について

篠塚 真司 都市の研究―松山市と大分市を事例として―

高田 拓

柳川のまち―水との共生―

吐合 賢

八代平野における開発と信仰

麓 知 紘

農村景観保全の必要性とこれから

松岡 大 輔

公園緑地政策の展開

―別府市の公園計画を主として―

眞鍋 吉 弘

平氏と厳島

村中 智 絵

ナショナル・トラストから見る景観保全

安永 直 美

農村景観保全の在り方

山本 智 弘

田園空間整備事業による農村景観の保全と観光化の  
展望について

―

小野 めぐみ

連城寺真名里子長者伝説―伝説の仏像と千体薬師―

小西 輝 史

大分県在地蔵十王経と十王像

杉本 茂 喜

奈良・興福寺の金剛力士立像―伝定慶作について―

本郷 奈 律 子

鳥樞沙摩明王についての考察

舛川 千 菜 美

安養寺地藏堂の土製地藏菩薩坐像について

―他地域出土例との比較を中心に―

安達 多 紀

東大寺領荘園村落に住む住人達

青柳 智 治

武田勝頼論

畔津 宏 幸

戦術における城の攻防

池田 訓 久

赤松氏の研究―鎌倉末期―南北朝期にかけて―

窪田 真 夕

遊廓の女性史―吉原遊廓を中心として―

坂元 智 美

異性装の社会史―中世寺院の童を中心として―

佐藤 真 人

福岡県築城郡における諸荘園の開発の様相について

菅 さとみ

中世山野利用の変遷と信仰

―大分県の焼畑を中心に―

鈴木 隆 敏

八幡宇佐宮下宮について

西 萬 寿 隆

戦前と戦後の教育の比較的研究

長谷川 愛

女性商人から見た中世社会

水田 愛

村落共同体と環境―動物を中心として―

山田 剛 徳

宇佐宮領田染荘における田染氏の活動について

大悟法 良 子

薦社の研究―マコモ・三角池(御澄池)・行幸会―

野村 智 史

環境歴史学的視点に立つ地域開発史の研究

久松 泰

―備中足守の都市と農村の開発を事例として―

九州における焼畑の研究